

症 候／病 態

Symptomatology／Pathophysiology

コース責任者

腎・泌尿器外科学教授 力 石 辰 也

1. 学習目標

1) 一般目標 (G I O)

主な症候／病態の原因、分類、診断と治療の概要を発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて学ぶ。

2) 行動目標 (S B O s)

- (1) 主要な症候について、その病態を説明できる。
- (2) 主要な症候について、その原因を列挙できる。
- (3) 主要な症候を呈する疾患について、疾患名を列挙できる。
- (4) 主要な症候をきたした患者について、その診断の要点を説明できる。
- (5) 主要な症候をきたした患者について、治療の要点を説明できる。
- (6) 主要な症候以外にも、各コースで必要とされる症候あるいは病態について、その原因、疾患名、診断、治療について概説できる。

2. 学習内容

主要な症候は以下に示す。また、これ以外にも各コースの中でさらに付け加えられる症候がある。

臨床検査の基本、ショック、発熱、けいれん、意識障害・失神、不穏、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、体重減少・増加、顔色不良・顔面蒼白、黄疸、発疹、掻痒、褥瘡、貧血、出血傾向、リンパ節腫張、浮腫、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇、血圧低下、胸水、胸痛、呼吸困難・息切れ、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・筋力低下、歩行障害、感覚障害、腹痛、むねやけ、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、便秘・下痢、血便、吐血・下血、腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、尿閉、尿失禁、排尿困難、月経異常、無月経、性器出血、更年期障害、関節痛・関節腫張、筋肉痛、腰背部痛、視力障害、視野障害、複視、飛蚊症、眼脂、結膜の発赤（出血、充血）、聴力障害（難聴）、耳鳴り、鼻出血、咽頭痛、嗄声、構音障害、嚥下困難、喘鳴、痴呆、幻覚、妄想、不安、抑うつ、睡眠障害、哺乳力低下、活動性低下、啼泣異常、運動発達の遅れ、精神発達の遅れ、妊娠・分娩・産褥の異常、胎児・新生児の異常

3. 学習方法

連続したⅡ時限を1回の授業とする。また、原則として各週の水曜日に問題演習による TBL (Team Based Learning) を実施し、金曜日の授業ではそれに関連した講義を行う。なお、TBL は下記の要領で実施する。

最初のⅠ時限目は、7～8名程度の小グループに分かれ、4階 SGL 教室で行う。

症候／病態に関連した6問程度の演習問題について、各グループで討論を行い、ホワイトボードに討論内容を記載し、それを出力したものを討論終了後302教室の教卓の上に提出する。

Ⅱ時限目は討論内容の確認とその講評を302教室で行う。

グループによる討論内容の発表を行い、担当教員による講評、演習問題の解説を行う。

4. 成績評価

総括的評価：学期末および学年末に客観試験を行う。

形成的評価：出欠や議論への参加を積極的に参考にする。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	80(%)	前後期定期試験を実施する。
授業態度	—	20(%)	TBL 時のグループディスカッションへの出席率、発表の態度を総合的に評価する。

5. 教科書・参考書

「内科学」(朝倉書店)

「内科診断学」(医学書院)

「標準外科学」(医学書院)

6. 準備学習

講義毎に、該当の症候／病態について、示した教科書・参考書をもとに予習すること。

7. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
腎泌尿器 外科学	教授	力石 辰也	原則として 毎週火曜日 11:30～13:30	教育棟2階 キリスト教文化センター	3248 (内 線) 80284 (PHS)